

消防署 だより

松前消防署 ☎ 984-3404

集中豪雨に備えよう

日本は、適度な雨に恵まれ、四季の変化に富んだ国です。しかし、1カ月かかって降る量の雨が数日で降ってしまう「集中豪雨」が発生することがあります。集中豪雨は、浸水やがけ崩れなどを発生させ、私たちの生活や命を脅かす可能性があります。対策をすれば被害を軽減できます。

集中豪雨から身を守るためのポイント

日頃の心掛け

- 1 自宅周辺の排水溝などを点検して、詰まりがあったら取り除く
- 2 地下階への浸水に備える（仕切り板や土のうで浸水防止）
- 3 松前町総合防災マップで避難場所と持ち出し品を確認する

天気の変化に備える

- 1 天気予報から…雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ているとき、「大気の状態が不安定」などの表現があるときは注意する
- 2 空の状態から…「急にまっ黒な雲が近付いてきた」「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」などの場合は注意する
- 3 川の状態から…「水かさが増えてきた」「濁ってきた」「流木が流れてきた」などの場合は注意する

豪雨時

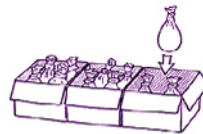
- 1 外では…浸水地や水の流れを避けて歩く。やむを得ず浸水地を歩く場合は、集団で行動し、傘、棒や枝などを利用して水深を確認しながら歩行する

- 2 屋内では…避難勧告や避難指示が発表されていなくても、地下階、過去に浸水被害のあった場所や河川の近くにいる場合、避難に時間がかかる場合は避難する。自宅から避難する場合はブレーカを切る

簡易水防工法の例

これらの工法は、あくまで小規模な水災で水深の浅い初期の段階で行うものです。危険を感じる前に早めに避難しましょう。

例1 ごみ袋による簡易水のう



40リットル程度の容量のごみ袋を二重にして、半分の水を入れて閉め、これを段ボールに入れて連結して使用する

例2 プランターとレジャーシート



土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用する

例3 ポリタンクとレジャーシート



10リットルまたは20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用する

例4 止水板



長めの板などを使用し、出入り口の浸水を防ぐ



広報まさき5月号の消防署だよりに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
(誤)第7分団の古野学さん → (正)第6分団の古野学さん